関係者各位様

パントマイム公演「アクシデント」公演のお知らせと、公演に至る経緯などのご説明（広報用）

公演日時：2006 年 3 月 21 日（火）
開場午後 1 時 30 分
開演午後 2 時
入場無料
場所：サンアップルホール（長野県障害者福祉センター）
住所：長野市下駒沢 586
公演タイトル：パントマイム公演「アクシデント」

出演者
パントマイマ -
小野寺修二　藤田桃子
市川小学校 4 学年
岸春花　　小林世奈　　丸山貴也　　米持翔　　米持彩
吉越春香　　斉藤周平

主催：野沢温泉村立市川小学校４学年
共催：市川小学校４学年ＰＴＡ
　　リトミック研究センタ - 長野第一支局 phone 026-259-0864
　　URL http://kodomonotameno-r.com/
　　E-Mail:info@kodomonotameno-r.com
　　しなのキャンパス
　　E-Mail: sina-cam@mx2.avis.ne.jp
問い合わせ：田中和幸（市川小学校教諭）
090-1123-3658　E-Mail:cowgon2004@yahoo.co.jp

ダウンロード PDF http://kodomonotameno-r.com/download/accident.pdf

身体を拓く～総合学習から表現を追い続ける子どもたち

リトミック長野第一支局　北島由美

野沢温泉村立市川小学校田中学級のこれまで

　担任の田中和幸氏は　総合学習こそ子どもたちの生きる力をはぐくむ教育であると、長野県内の三郷小、山ノ内東小、附属長野小などで、動物の飼育を通じ子どもとともに人間として生きる意味を問い続けてきた。平成１５年度市川小に赴任して７人の２年生の担任になってから今年度で３年、４年生を終えようとしている７人と担任のこれまでの経緯を簡単に書いてみる。

理由はわからないが、田中氏が担任になると１週間で子どもの様子が変わる。こどもたちが活動的になる。少し寒くても半袖で過ごす子どもがほとんどになる。そして一人一人が自分の言葉で最後まで語るようになり、その話をみんなが一生懸命聞く雰囲気が出来てくる。そういうクラスの雰囲気を創り出すのと同時に先生は、そのクラスの中核活動を何に据えるかを模索し始める。こどもの毎日の会話の中や、学校でのやり取りの中から、疑問や興味を注意深く聞き出しながら、全員が必死になって取り組める事柄を迷いながら探していくのである。
　これまで、羊やガチョウの飼育を低学年の中核活動として据えてきた田中氏は、今回も何かの動物との出会いを考えていた。しかし何せクラス全体で７人だけという状況の中で、大きな動物は物理的にも無理であろうことは予測できた。だから余計に７人がはまり込める題材がなかなか決まってこなかった。

　私がリトミックが総合学習と同じ出発点にあることを確信したのは、田中氏が附属長野小で羊とこどもたちを向かい合わせている様子をずっと見ているときだった。教科学習をタテの糸にたとえるならば、中核活動はそれらを編み上げて行く横糸のような役割に思えた。それは音楽という限られた領域の中で、全人教育を目指したリトミックの位置づけとまったく同じだと感じたからである。生き物を飼うところに「待った」はない。絶えずそのときに一番良いことを考えていかなえれば、対象は死んでしまうのである。音に即時に反応する、自分の感じたものを自分らしく表現する、周りの人、ものとの調和を瞬時に判断し実行することなどを、さまざまな音楽を媒体として行うリトミックにも、やはり「待った」はない。今をその子がその子らしく生きるための総合、音楽教育の中でリトミック。これを願う気持ちは私の中で日に日に大きくなっていった。

田中氏より学級でリトミックをやってみないかというお話をいただいたのは、７人の２年生がクラスの中で自分の言葉で語るようになった１学期の半ばになろうとする頃だったか。教室を訪れた時、こどもたちの天真爛漫な人懐こさにこちらが思わずたじたじしてしまうほどだった。学級訪問者に対し、物怖じせず話しかけ、自分を語り、それが学級の話題となっていく。２年生当初先生からの問いかけに何も反応しなかったこどもたちだったという話が信じられないほどであった。それなのに田中氏から発せられた言葉はこうであった。

「とにかく硬いんだ。小さい頃からずっと同じ集団でいたこともあり、限られた集団内での力関係も影響してか、自分をうまく表現できない。この教室の中ではようやく語れるようになったけれど、ここから一歩外に出ると、別人になる。身体を拓けない」

それが実感として伝わったのは、　私が７人とリトミックをやってからだった。まわりを気にしないで動くことに対する抵抗感の大きさ、一人になれない依存心、発想の乏しさ、・・教室で生き生き語る７人とはまるで別人であった。経験不足の一言ではすまされない大きな壁を感じないではいられなかった。子どもたちの身体を拓くこと。これが私たちの目指すところとなった。

　その頃のこどもたちは校舎の前にある畑にとうもろこしを作り始めていた。とうもろこし作りからまたさまざまな学習が広がっていく。そこからオペレッタ「とうもくんのたび〜野菜王国物語」が誕生した。シナリオ台本はこどもたちである。配役まで大まかに出来たところにお邪魔したら、役どころが一人一人にうってつけで、驚く。すべてが子どもたちのアイディアとのこと。さらに、せりふは覚えるのではなく、大まかなスト–リだけ決めてあとはその日その日で味付けを変えていく。その瞬間の気持ちで相手に語りそれを受けて答えていく。歌もこどもたちから自然発生してきた歌から拾い、そこに伴奏をつけるだけ。私自身このときのオペレッタで、子どもの動きに即興的にタイミングをみはからい音を入れていくスリリングな体験をすることが出来た。こどもたちの演技力はなかなかであったように思う。しかしこどもたちが本当に身体を拓いていたわけではなかった。

　リトミックでは、音を聴いて自分のイメ–ジで動くというメソッドがある。ある時、エナジ–チャイムという楽器を使って、その音を聴いて身体を動かす課題を提示した。しかし、音の高低、長短などに対して、７人が反応したのは僅かな手の動きくらいで、身体全部を使って表現したり、ともだちとはちがう動きで伝えることがなかなかできないのである。この動くことへのためらいは生活全般に及んだ。学級ではたくさんの気づきがあっても、全校の前では口を閉ざす。立場が強いものの意見をおかしいと思っても反論できない・・・など。そこからだった。７人の挑戦が始まった。多分頭の中で思っていても体が思うようについてこない、周囲の視線が気になる、そういう悪循環の中で、７人はもがいていたのだと思う。そんな７人に対する田中氏とこどもたちのやり取りは、外から見ていても容赦なかった。こどもたちに何か言う時の田中氏は、必ず自身が「自分ならこうする」と身体丸ごとで語る。それなのにこどもたちは呪縛にでもあったかのように　ただ座り続ける。そこに変化が現れたのは、いつぐらいだったか・・。「すわってないでやろうよ」ことばでどんなにかっこいいことを言うより、まず身体を動かすこと、そこに一人、また一人と到達していったのである。こどもたちの語りに身体の表現が加わっていった。

　３年生になり、７人は「売れるとうもろこしをたくさん作ってそれを売り、自分たちの力で校歌をつくった人の軌跡をたどりたい」という願いから、広大な土地を地域の方より借用し２０００本のとうもろこし作りが始まった。７人で荒地を畑にしていくだけでも気の遠くなる仕事である。「待った」なしの挑戦が始まった。７人の教室は場所を畑に変えた。発芽・苗の定植・水遣り・雑草、病害虫とのかかわり・周辺の野生動物による食い荒らし・・日々持ち上がる難題に知恵を絞り、ただただ身体を動かした。だから狸がとうもろこしを食い荒らした時も「ごんぎつね」を題材にごんと兵十に自らの体験から来る気持ちを寄せてとことん話しあった。ひとりひとりのとらえ方の違いは、そのままとうもろこしとかかわるそれぞれの違いだった。この年音楽劇『ごんぎつね』を音楽会で取り上げ、たったひとことを自分はどう語るか　最後歌い上げた時どんな気持ちが胸に落ちるか　納得のいくまで自分自身と向き合った。

７人の日常の疑問や会話は　時としてとんでもない方面への学習に繋がっていく。限りない可能性の中から　田中氏は幹が太く根を張り巡らすだろう課題を吟味し、こどもたちに選択させていく。またそのときはまだ幹は細くても、何かにつながってきそうなものは、黒板の隅に残しておく。動物の飼育とはかけ離れながらも、こどもたちの探究心がさまざまな学習を呼び込んでいく様子に田中氏は新しい総合学習の一面を確信したのだと思う。私は教室を訪れるたびに、こどもたちがより柔らかな発想で、ともだちとのかかわりを大切にはぐくんでいる様を肌で感じるようになり、この子たちに本物と出会って欲しいことを願うようになった。勿論それまでも、とうもろこしづくりのエキスパ–ト、野菜を流通させている仲買人といわれる人、山で働く人、地域の人たち、と普通の学校生活の中だけでは出会うはずのない人たちとのつながりを大切にしてきていた。でもこどもたちの可能性を間近にしていたら、もしかしたらもっと変わるのではないか・・そんな欲が私の中にも生まれていた。「こどもたちに出会って欲しい人がいるのです。」先生にそう切り出したのは３年生の夏ころだったか。

「水と油」と７人の子供たち

　藤田桃子さんと私（北島）の出会いは、リトミック研究センタ–東京養成校第１６期入学式（２００３年４月）である。その時彼女は、
「ずっとマイムをやってきました。自分でまだ学ぶことはたくさんあるのですが、そろそろこどもたちに私が伝えられることもあるんじゃないかと思うようになりました」
と語った。
日本パントマイム研究所を経て　彼女自身を含む４名で結成した劇団「水と油」は、２００３年、第２回朝日舞台芸術賞「寺山修二賞」「キリンダンスサポ–ト」をダブル受賞した。リトミック研究センタ–養成校に通いながら、アジア、ヨ–ロッパ各国での公演をこなす彼女に、いつごろか私は市川小のこどもたちの話をするようになっていた。そして最初は冗談半分に「長野にきてほしいなあ。」といっていたことが　市川の７人を見ていくことで私の中で必然になっていった。子どもたちの様子を聞いていたももちゃん（藤田さん）も時間さえ合えば絶対行くからと、日程調整までしていただくようになっていた。結果１６年度末の３月上旬、藤田さんと小野寺さん（水と油リ–ダ–、藤田さんのパ–トナ–）の市川小訪問が決まった。その直前２月の「水と油」の東京公演を見た私は、舞台のすばらしさに圧倒され、自分があまりに無謀なお願いをしたことに気づいた。しかし藤田さん小野寺さんの市川小訪問は目前となっていた。

　３月７日　お二人が市川小を訪れた。田中氏はせっかくの出会いだからいつものようすもみてもらおうと「ごんぎつね」の後子どもたちの中からでてきていた信州新町の民話「あずきまんま」を演じる様子と、重力についての授業参観も用意していた。この参観があとになって分かったのだが、小野寺さんの気持ちを動かしていた。それは　当初よくあるマイムのワ–クショップを予定していた小野寺さんが、授業参観の後、藤田さんに今日の予定を変えることを告げたのである。ここのこどもたちには単なるマイムの入り口を見せるショ–でないことをやってみたいと。藤田さん小野寺さんは　ほんの少しの打ち合わせのあと　全校生徒に対してマイムを演じた。７人の視線が、釘付けになっていた。たった半日の滞在だったが、そこからこどもたちの何かが変わっていった。

　４年生になった子どもたちは相変わらず探究心旺盛だった。でも単なる提案だけだとクラスで取り上げられない。裏づけ、準備、周りを納得させるだけの資料を用意して初めてクラスの問題として位置づく。ただそんな中で「表現」がこどもたちのなかではずせない課題として定着しつつあった。こどもたちの中にパントマイムの不思議さ、憧れ、小野寺さん藤田さんへの思いがいつも見え隠れしていた。そして、彼等の表現活動の一つの現れとして「自分たちのつくるソーラン節」が座った。２年生の頃運動会で演じた「ソーラン節」は納得していない、やらされていた気がする。納得いくまで踊り続けたい。先生たちが作るのではなく、自分たちでつくるソーラン節を踊りたい・・・。そしてただ一心不乱に踊り続けた。それが音楽会で披露された。しかし７人はそこで満足していなかった。まだソ - ラン節は終わっていない。小野寺さん、藤田さんに見てもらいたい。パントマイムをやりたい。一緒にステ - ジに立ちたい・・・。夢はそう簡単にはかなうものではない。かなえたくても無理なことはたくさんある。それを承知で７人は自分たちでパントマイム公演を企画した。何度も先生からストップをかけられあきらめるよう言われても７人の気持ちは変わらなかった。

ここに書いてあることは、田中氏と７人のごくごく一部で、すべてをお知らせできないことがもどかしい気持ちです。ただこの公演が単なる思いつきで決まったのではなく、言ってみれば田中氏と７人の毎日の積み重ねの上にやっとこぎつけたものであること。更に、本気でたくさんの人たち（大人も子どもも）がかかわってきたことを少しでもお伝えできればと思ってつづりました。

　最後になりましたが、小野寺さん藤田さんという世界的にも注目されているパントマイマ–お二人が、真剣勝負で７人とこの公演に向かってくださったこと、そこには妥協はなく、勿論大人とこどもといった関係でもない人間同士のぶつかり合いがあったこと。その誠意と情熱に心から敬意を表す意味で、リトミック教育に関わる者として出来得る限りのことをしたいと考えております。
関係各位の皆様には、どうかこうした背景を認識していただき、今回の公演を支えていただきますよう、お願い申し上げます。今回の公演に関してましては、入場料無料とさせていただきましたが、賛同寄付、カンパを随時受け付けております。よろしくお願いいたします。

リトミック研究センター長野第一支局　北島由美

～重力をもとめ天気を探りそれが劇団セブン～

今後の公演にむけた推進日程について
０平成１８年２月いっぱい…小野寺さん，藤田さんからのご指導のあったピースづくり
※学級ＰＴＡでは７ストーリーで一人一つの脚本を…ということを企画していましたが，同じパターンになってしまう恐れと，見る人にとってどうなのか…という視点から変更し始めています。詳細は未定
０３月７日（火）…小野寺さん，藤田さん長野入り市川小学校来校（１０日まで滞在）
※７日（火），８日（水），９日（木）と市川小学校プレールーム（時々体育館）を借用させていただき，公演の練習を行いたいと思います。
１０日（金）…小野寺さん，藤田さん，長野リトミック，しなのキャンパススタッフ方によるサンアップルでの練習
※戸狩野沢温泉駅～三才駅（ＪＲ使用）
三才駅～サンアップル（公演会場）（タクシーで５分）
詳細は後日提案します。
０３月１７日（金）…小野寺さん，藤田さん長野入り市川小学校来校（２１日まで滞在）
※１７日（金），１８日（土），１９日（日），２０日（月）と市川小プレールームをお借りして公演の練習を行いたいと思います。
時間は９時００分～１６時頃（弁当持参）
０３月２１日（火）…公演日
※８時３０分会場へ集合９時００分から練習１４時００分開演（１時間の公演）
※詳細は後日提案します。

パントマイム公演「アクシデント」リーフレット